

教育学部 研究室紹介

川渕 博祥 特別特任教授・学部長代行（生活科）



生活科という科目を知っていますか。生活科は、平成元年(1989年)に誕生した新しい教科です。小学校低学年には、理科や社会科という教科はありません。それに代わって、生活科が誕生しました。そのため、理科の飼育・栽培や自然観察、社会科の学校探検や町探検といった観察や体験を主とした活動の多い教科です。小学校1・2年生なので、幼稚園・こども園・保育所等の幼児教育との関係も近いです。そこで、シロツメクサの花冠やカラスノエンドウの笛等の草花遊び、スイカやサツマイモといった野菜作りや食し方、いろいろな花びらを使った押し花作りやしおり作り・色水遊び等の活動を行っています。また、それらの活動を生かした授業の工夫の研究も行っています。

井上 龍彦 教授・学科長（彫刻・造形表現）

私の専門は彫刻・造形表現です。石材での彫刻や粘土を焼成しての造形作品を制作しております。授業では「図画工作Ⅰ」「図画工作Ⅱ」「保育の表現技術（造形）」「図工科指導法」等、表現活動の基礎的なものから、保育造形や図画工作の指導についての内容を担当しております。モノを表現するには素材を知ること、技法を身につけること、それと大事な感性を磨くことです。感性を豊かにするにはいろいろなことを経験し、感じるのだと思います。新しいモノもそうですが、古い時代のモノからも感性を揺さぶる魅力があります。そのような思いで集めた図書やモノ（作品も含む）が散在している研究室です。



和田 憲明 教授・学科長補佐（英語教育）



神戸市立中学校、国立大学附属中学校に勤務した経験を生かして、英語授業研究に取り組んできました。現在は英語授業研究会関西支部長を務めており、「コミュニケーション能力を育成する授業づくり」をテーマに、小中高における英語授業の研究を行っています。

教育学部では、「英語コミュニケーションⅡ」「外国語総合Ⅰ」「外国語総合Ⅱ」「外国語（英語）」「外国語（英語）指導法」等を担当しています。今年は、卒業研究ゼミ・2名、専門研究ゼミ・3名、基礎ゼミⅠ・16名の学生を担当しています。目下、4年生は就職も決まり、卒業研究の完成に向けて、遠隔授業で卒論に懸命に取り組んでいます。



江頭 義之 教授（音楽・ピアノ）



こんにちは、江頭研究室ではピアノ演奏と音楽理論、作曲などに関する研究を行っています。ピアノ演奏では、ピアノリサイタルの他、室内楽や伴奏など、様々なコンサートに出演しています。作曲活動では、「少女少女のための合唱組曲『ぼくがここに』」や、「金子みすゞの詩による少女少女のための合唱組曲『みんなちがってみんないい』」という合唱曲などを西宮少年合唱

団の定期演奏会などで公開演奏しました。また、YouTube でも、様々な演奏や作品を公開しています。学内では、音楽理論の授業の中では、楽譜の書き方や音楽の基本的なルールを理解するために、実際に簡単な曲の作成の時間を設けています。グループで曲を作ることによって、楽しみながら楽譜の書き方や表現方法が体得できるので好評です。

長瀬 善雄 教授（教育方法学）



専門領域は教育方法学で、本学での担当科目は主に小学校教諭1種の免許取得のための科目を担当しています。特別活動指導法、学校・学級経営論、教育実習論（小学校）などです。その他に3人のゼミ生を担当しています。趣味はスキー。岩手の安比高原スキー場、山形の蔵王スキー場はとても気に入っています。しかし、スキーのレベルが一向に上達しないのが悩みのタネ。「下手の横好き」という感じです。極寒に耐えられる体力と気力を鍛えなければと思っています。今、興味あることは日本の特別活動が「Tokkatsu」という名前でエジ

プトの教育に取り入れられています。見てみたいと思います。

私は「桜梅桃李」という言葉を大切にしています。この意味はそれぞれが独自の美しい花を咲かせるように他人と自分を比べることなく個性を磨くということです。この言葉を胸に日々学生の皆さんと接しています。

和田 幸司 教授（歴史学・社会科教育・人権教育）



和田幸司ゼミは、歴史研究を生かした社会科授業開発に取り組んでいます。兵庫県教育委員会の後援のもとで、兵庫県下の小中学校の先生方と共に、人権を大切にする社会科授業開発を行っていますよ！！子どもたちが

「へーっ！」と驚いたり、「なんでやろー？」と追究したり、「こんなのあかんわー！ぼくらが未来を創るで!!」とこぶしを突き上げるような授業を創ってみませんか。



小河 晶子 教授（特別支援教育・保育）



私の研究テーマは、特別な配慮が必要な子どもおよび家族への支援についてです。

特別な配慮が必要な子どもへの支援はインクルーシブ教育促進のもと、通常学級の担任、保育士にも求められています。支援について知識が必要なことは当然のことながら、実際に対象児と関わる事が重要です。そのため、私の研究室では、発達クリニックにおいて、感覚統合療法の視点を取り入れた実際の指導ができるボランティア生を受け付けています。これまでの卒業生や他大学の方との交流もあります。私も一緒に皆さんと指導に当たります。学生の間に少しでも経験を積みたい、このボランティアについてももう少し詳しく知りたいと思った方は是非お声をかけてください。

杉山 雄一 教授（弦楽器・合奏）



皆さんこんにちは！私の専門は、弦楽器・合奏です。3～4年生の杉山ゼミでは主にヴァイオリンを使って、弦楽器と教育に関する研究を行います。主要テーマは音楽のアウトリーチ、生涯音楽学習です。

「アウトリーチ」とは「出前」のことで、音楽ホールの中ではなく、学校園や街角での演奏について研究します。生涯音楽学習では、音楽を、生涯のパートナーにしてもらうための方策について研究します。先輩は「老人福祉施設における訪問演奏プログラムの開発」「小学校音楽科授業におけるヴァイオリン導入の可能性」などのテーマで卒論を書きました。



和田 典子 教授（文学・国語）



みなさん、こんにちは。私は、近代文学（児童文学・大正期の詩・童謡）と子どもの生活・文化の研究をしています。小学校教諭・国語教員（中・高）・保育士の資格を持っているので、国語や保育内容言葉の授業を担当しています。公開講座や講演会では、「唱歌童謡の歴史」をテーマにお

話をしているので、唱歌童謡にも詳しいです。研究室には明治・大正期の唱歌や童謡の本がたくさんあります。大学と大学院の研究論文のテーマがファンタジーだったので、ハリーポッターや借り暮らし（アリエッター）・宮沢賢治などのファンタジー系列の本も並んでいます。旅行が趣味なので、海外の本や可愛いグッズもありますよ。本好きの人は、遊びに来てください。



田井 敦子 教授（幼児教育）



私は幼児教育が専門です。今、主に研究していることは、こどもの表現（造形・音楽他）で、理論に裏付けされた実践研究をしています。研究室の本は専門書もあれば、実際の保育で活用できるもの、保育で使う楽器やエプロンシアター、パネルシアター、絵本、運動遊びに使う用具、食育遊びなど実技に使うものを置いています。また教採対策講座で使用するテキストやこれまでの卒業生が受験した市や私立幼稚園、保育所の資料、卒業生が就職に向けて勉強してきたノートなど、就職関係のものも置いています。

研究室はいつも明るく、清潔感漂うように心掛けています。居心地の良い空間を維持することに努めています。



日瀧 淳子 教授（心理学）



私は生涯発達心理学臨床心理学，教育心理学を専門に研究しています。特に、人間の時間的展望という過去や未来を展望しながら現在を生きる力や、未来をどのように構築していくのかについての研究をしています。人間の心は見えないのでそれをとらえることは難しいですが、それが心理学の楽しさだと思います。

私のゼミでは各自が興味を持った人間の行動や思考の背景にある心理についての研究をします。下の写真は卒業生の写真です。みんな意欲的に研究に取り組み、自分の研究テーマの自分なりの答えを見つけて卒業していきました。心理学，人に興味のある人は、研究室をのぞいてみてください。話をしましょう。



渡邊 真人 准教授（情報処理・情報学）



「情報処理技術Ⅰ（基礎）」と「情報処理技術Ⅱ（応用）」の演習科目を担当しています。担当する「情報処理技術Ⅰ（基礎）」では、コンピュータのハードウェアやソフトウェアについての理解を深め、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。「情報処理技術Ⅱ（応用）」では、表計算ソフト Microsoft Excel や Google スプレッドシートを使用して、表計算ソフトによる表検索や並べ替え、抽出などのデータベース機能を学習します。担当する専門研究（ゼミ）では、電子黒板利用による教育実践やプログラミング教育に取り組んでいます。写真は、ゼミで企画したキッズオープンキャンパス「アンプラグドなコンピュータ体験教室」の様子です。



山本 千紗 准教授（音楽・ピアノ）



研究室のドアを開けると、皆さんの先輩が作ったネコバスが出迎えてくれます。もともと、幼稚園の子どもたちが4~5人乗ることができるバスで、イベントなどで子どもたちが遊んだり写真撮影をして大活躍しましたが、数年前にこの形にリメイクしました。このリメイクも皆さんの先輩のアイデアです。これからもずっと研究室で大切にしていきたいと思っています。2枚目の写真は、研究室に用意している学習スペースです。



授業の質問に来る学生、色々と話をしに来る学生、ここで勉強する学生もいます。研究室に楽器は置いていませんので、ピアノを教えて欲しい時は、練習室を予約してから呼びに来てくださいね。

西野 晴香 准教授（器楽演奏（ピアノ）・ピアノ実技指導）



西野研究室では、ピアノ実技を中心とするさまざまな場面における音楽指導について研究を行っています。音楽は本来、目に見えないものです。しかしながら、音楽を再現用に記録（記譜）した「楽譜」であれば手に取って目で確認することができますし、音楽を聴いたり音楽が演奏される様子を観たりすることによって、音楽の姿を感受し、頭の中で見る＝想像することは可能です。ゼミ生は、そうした音楽を使って保育・教育現場において自分には何ができるのかを考えています。そのために主に使用する楽器はピアノですから、自身のピアノ技術を向上させる意欲のある学生を受け入れています。音楽に触れながら、皆さんと一緒に学び合いたいと思っています。



榎並 雅之 准教授（算数教育）



皆さん、はじめまして。私の研究室では算数教育に関わることあれやこれやを研究したり学修したりしています。間違えてはいけないのは、算数教育であって数学教育ではないということです。「???」かもしれませんね。「算数と数学は何が違うの?」と聞かれると、多くの方は「算数は小学校で、中学になったら数学になる。」と答えてくれます。でも、それだけではなく、算数は「量を扱う学習」で数学は「数を扱う学習」と言われています。「ほおー」と思った人は研究室をたずねてきてください。そのようにして皆さんの先輩も集まってきました。そして「算数の授業づくり」についてたくさんの研究を残していってくれました。問題が分かったときの「なるほど!!」という子供たちの声を楽しみに今日も研究をいします。

長崎 誠人 准教授（宗教学）



専門は宗教学で、近現代の日本宗教史とくに新宗教を中心に研究を行っています。宗教の発生とはどのような事態なのか、教祖や開祖と呼ばれる人物はどのようにして教祖になったのかを実証的に考え、そこから「宗教」や「信仰」について理解しようと試みています。

一見、教育とは無関係に見えるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

教育と宗教はさまざまな関係があり、とくに近代国家における教育と宗教の関係は複雑かつ微妙です。そこで、今年度の専門研究ではゼミ生とともに藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波書店、2011年）を講読し、日本の学校教育について宗教という観点から学んでいます。宗教という観点から教育について考えて見ると、色々なことがわかり、学校教育についての見方が少し変わるかもしれません。

大西 雅子 講師（心理学・臨床心理学）



大西研究室では、心理学・臨床心理学に関する研究を行っています。教育の場において今、必要性が再認識されている「治療教育」という観点から、子ども自身、また保護者や教育機関への支援を専門分野としています。学生の皆さんには、どのようにかかわることが望まれるのかなどの理解を深めていただいています。保育、教育の現場では、さまざまな悩みを抱えておられる方が

たくさんおられます。不登校問題、発達障害、子育て問題などに対して、いかに解決しどう助力するかということに取り組んでいます。また、地域力を充実するということをモットーに、地域の方と連携したボランティア活動も行っていきます。ご興味のある方は、ぜひ、研究室をお訪ねください。



今野 賛 講師（体育科教育学）



皆さん、こんにちは。私の専門は体育科教育学で、子どもが体育の授業において何を学ぶべきなのか、生涯にわたって運動やスポーツを続けるためにはどのような力を身につける必要があるのか、といったテーマについて日々考えています。特に、ドイツの学校体育のカリキュラムについて研究していますので、ドイツの学校体育やスポーツの現状について授業やゼミで取り上げます。また、幼児を対象とした運動遊びについても研究していますので、大学近隣のこども園、保育園、幼稚園など

において、ゼミの学生と一緒に運動遊びの訪問指導も行っています。ゼミでは、研究だけではなく学生さんたちと夏は山や川での野外活動、冬はスキーなどもしています。このような活動を通して、運動・スポーツの教育的価値について考えることを大切にしています。

和田 真由美 講師（保育）



みなさんこんにちは。私の専門は保育・幼児教育です。その中でも保育史や保育思想、保育内容の研究をしています。授業は保育原理、保育内容総論、保育者論、幼児育課程論、保育実習等を担当しています。3～4年生のゼミでは、保育の教材や、保育・教育の歴史、絵本に関する研究などを行います。写真にある「はらぺこあおむし」のパネルシアターは、ゼミで作りました。

研究室には、絵本やパネルシアター、ペープサートなどの保育教材や、保育関連の雑誌、わらべ歌や手遊びなどの資料を置いています。特に絵本はたくさんあります。興味をもった人は研究室を訪ねてくださいね。



戸邊 俊哉 講師（社会学・図書館情報学）



私は社会学と図書館情報学を専門としています。ゼミ生の研究テーマとしてはファッション、ジェンダー、神話、ネット炎上、音楽鑑賞、図書館についてなど多様であり、それを教育学部であることを意識しつつ社会学・図書館情報学的な観点から指導しています。

多様なテーマで研究できることに興味を持つ人もよくいますが、それが可能なのは「当たり前だと思っていることを、なぜそうなのかと疑い調べる」という思考方法を研究の根幹に据えているからです。この手法を身につければ様々な社会現象を捉えることが出来るようになり、教育・保育の現場でも役立てることができるようになると考えています。こういった考え方に興味がある人はぜひ一緒に学んでいきましょう！



柳園 順子 講師（学校保健・教育学）



私の専門は学校保健・教育学で、学校保健や性教育（教育とジェンダー）に関する歴史について研究をしています。小学校、短期大学で養護教諭の経験があり、精神科医や臨床心理士らと健康相談に長年従事しました。知的障がい者児の療育や外国と繋がりのある地域のこどもたち等の学習支援にも長年携わってきました。授業は主に学校保健や健康相談活動、養護実習に関する科目を担当しています。教育、健康、社会、家族、性・セクシュアリティ等、自分の興味・関心のあるテーマを自

由に選び、これまでのゼミ生は若年妊娠・出産や援助交際、LGBTQ、養護教諭の行うアレルギー対応や保健室の色彩効果等について卒論を作成しました。既存の価値観に囚われず、多角的に物事を捉え、幅広い視野をもつことをいつも大事にしています。



白石 愛子 講師 (声楽)



白石研究室では、声楽（歌）について探求します。人間の体は素晴らしい楽器です。このゼミでは声楽実技レッスンをおこない、歌唱技術を高めるとともに、歌を通して表現する力を養います。また、その実技を通して興味・関心をもった内容

について研究を深めていきます。先輩方は「歌唱力を高めるための発声方法」「保育士に求められる歌声について」「絵本歌について」等の研究をおこなってきました。歌に興味のある人は訪ねてみて下さい。



内山 裕之 特別特任教授 (理科教育)



理科教育ゼミの内山裕之と言います。ゼミについての学生には大きく2つの柱のどちらかで研究を進めてもらっています。1つ目の柱は「楽しい一人一実験の開発」です。楽しくてしかも科学概念が実感を伴って理解できるというのが、実験開発の方向です。2つ目の柱は「理科の主體的対話的な授業の開発」です。学習指導過程に協同学習をどう

入れて、子どもの表現力を育成するかです。

2つの柱に進む前に4年の前期に教員採用試験がある関係上、専門ゼミ生はしばらく自然科学系の問題を解く力をつける学びも行います。興味がある方はよろしくお願いします。



藤田 美知枝 特別特任教授 (小児保健・社会福祉)

専門は、小児保健・社会福祉です。看護師の資格を持ち、何十年も前ですが、小児病棟の臨床経験があります。臨床を退いた後、看護師養成校の教員をしていました。その頃の講習会で、安積得也さんの「明日」という詩に出会いました。

「はきだめにえんどう豆咲き 泥池から蓮の花が育つ 人皆に美しき種子 (たね) あり 明日何が咲くか」(詩集「一人のために」より)

藤田研究室は、2号棟3階にあります。エネルギー補給したい時、疾病や看護に関する質問など、なんでも構いません。どうぞ気軽にのぞいてみてください。



谷坂 昇 特別特任教授（教育相談）



谷坂昇といいます。1年生の科目では「教育制度・行政論」と「学校・学級経営論」を担当しています。本来でしたら、1年生のみなさんと対面して、一人一人の名前を呼んで出席を取り、顔を覚え、その次には出身地を尋ねながら出席を取っていたのですが、今年度はコロナのために、それができなく大変残念な思いをしています。私だけでなく、1年生のみなさんも大変だったと思います。ともにこの困難を乗り越えて行きましょう。

私は、元小学校の教員で「学校大好き人間」です。何か尋ねたいことがあれば、遠慮なく研究室にお越しください。新2号棟4階の412号室です。基本的には月・火・木は大学に来ています。

平松 恵子 特別特任教授（養護教育・学校保健・健康教育）



専門は養護教育（養護教諭）・学校保健・健康教育です。臨床心理士の資格も持っています。小学校、中学校、高等学校での養護教諭の経験があります。私が新採用で勤務した中学校の生徒だった人が、ある時「先生に教わった歯磨き指導を今でも覚えていて、歯磨きのたびに思い出す。」と言いました。あれから何十年も経っているのに、彼の日常生活の中に養護教諭の健康教育が根付いて習慣化していることを大変嬉しく思いました。

平松研究室は、2号棟の4階にありますので、養護教諭に関する諸々の相談、悩みごとの相談、何となく話したい人、ほっこりしたい人、動機はなんでも構いません。少しでも興味を持たれたら一度平松研究室をのぞいてみてください。歓迎致します。



抱江 賢治 特別特任講師（生涯スポーツ・野外活動）



公益財団法人 YMCA での経験を活かして、本学では「健康科学」「保育内容（健康）」「体育科指導法」「体育」の科目を教えています。幼少年・青年の「精神」「知性」「身体」の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な社会を作っていけるような人となれるように、学生諸君と切磋琢磨できればと考えています。現在の主たる研究テーマは、『各ライフステージにおける「体の動きのあり方」と健康・スポーツ・身体活動』です。キーワードは「ウェルネス」

「ボランティア」「みつかる。つながる。よくなっていく。」です。大学時代における「学び」は、その後の皆さん自身の歩みへの大きな糧となると思います。時には立ち止まりながら、広い視野を持つとうとする気概と大胆な試みへの勇気を期待しています。